

2025年8月11日（月）

老球の細道 881号

暑かったらもっと熱くなれ「猛暑の中のバスケットボール」

会津バスケットボール協会 室井 富仁

小学校の夏休みがようやく半分終わった。孫たちが長期休業になると爺、婆は生活のリズムが大幅に変更させられる。ふだんなら午後3時頃までは爺、婆の自由な時間が確保され、新聞、読書、テレビと至福の時間を凌駕できるのだが、両親が仕事に行き、帰って来るまで爺、婆、孫娘、孫息子の「チーム室井」となる。近所に遊ぶ子供たちもいない（皆、子どもクラブで過ごしている）ので、爺婆が遊び相手にならなければならない。ほおっておくとゲームをしたりパソコンをいじったりで身体を動かすことを忘れてしまう。

昔は朝起きると夏の風物詩「ラジオ体操」から1日がスタートしたのだが、コロナをきっかけに町内ではそれがなくなってしまった。その代わりに我が家では息子の発案で朝涼しいうちに「朝バスケ」をすることになった。孫たちは眠い目をこすりながら今のところ続いている。継続は力なりで、夏休み後に開催される「ちびっこ大会」や「ジュニアカップ」などで練習の成果が出れば良いのだが、あまり期待をしてはいけない。

7月末から8月初めにかけて気温37度を超える猛暑の中、郡山で2つのバスケットミッションをクリアした。一つは、郡山東高校におけるクリニックである。女子のペイントの中でのシュートフィニッシュを確実にしたい。そのために女子のシュートフォームをワンハンドでもできるようにしたいというコーチから要請で「ワンハンドセット、ジャンプシュート」のクリニックを実施した。3時間のメニューであったが、選手は集中力を切らさずにアグレッシブに取り組んでくれた。体育館は県立高校には珍しく冷房完備のために、外の猛暑もなんのその。岡山インターハイで大活躍した日本航空北海道の庵原有紗（NO6）選手のような華麗なワンハンドジャンプシュートで得点を決められる選手が育ってほしい。

もう一つは、福島県成年男子選抜チーム強化試合観戦である。郡山東高校のクリニック3日後に郡山市守山中学校で山形県選抜チーム、新潟医療福祉大学の3チームで強化試合が行われた。こちらは大型扇風機が準備されたが、クーラーとは比較にならず、選手と審判（郡山地区の女性審判）、そしてスタッフにとっては酷暑の中でのゲームとなった。このような悪環境下でのゲームであったが、さすがに各県を代表するトッププレイヤーで、手抜きをする選手は見当たらず、激しいプレイのやり合いで久しぶりに見ごたえのあるゲームを観戦することができた。このようなゲームを中学生、高校生には是非見てほしいものである。特に本格的な大人のクラブチームが少ない我が会津地区の生徒たちは必見である。走らないで、のらりくらりとプレイすることを「大人のバスケット」とよく言われるが、本物の大人のバスケットは激しくディフェンスし、リバウンド、ルーズボールに身体を張って跳びつき、声を出し、良く走る。福島県成年男子のプレイを観戦していつも思う。

会津地区からは選抜チームの監督に大内先生（会津高校）、選手に若商OBの川島（弟）君、矢澤君が参加。新潟医療大学には謹教ミニバス出身の斎藤諒太君が存在感を示していた。